

聾学校の学習集団編成について

正会員 ○平根 孝光 *1

聾学校の建築計画に関する基礎的研究4

萩田 秋雄 *2

□研究の目的

聾学校は、一般学校に要求される施設諸条件はもとより、聴覚障害に対する施設・設備面での配慮が必要となる。特に、聴覚障害に対する補償として補聴器装着時の保有聴力の活用が教育に有効であることから、教育支援機器として集団補聴設備を使用することが多い。その際、集団がどのような構成でどのような編成となっているのかを明らかにすることは、建築計画に重要なものの一つとなる。本報告は、聾学校の幼稚部・小学部・中学部における学習・生活集団の状況を把握し、聾学校の建築計画に資することを目的としたものの事例報告である。

□調査の方法

調査対象校S校は東京地区にあり、学校の概要は表-1に示すように、設置学部が幼稚部(教育相談を含む)・小学部・中学部の3学部、在籍者数75人、教諭(養護教諭を含む)33人、講師等(非常勤講師、嘱託員を含む)5人であり、3学部設置タイプ校における標準を少し上回る学校である。調査は、平成7年1月、調査票記入方式(2週間留め置き回収)及び回収時にヒヤリングを行った。

□幼稚部の集団編成について

幼稚部は表-1で示したように、正規の学年(3~5才児)の他に、聴覚障害に対する0~2才児の教育の有効性が高いことから、教育相談という形で早期教育が行われている。表-2に示すように0才児・1才児が週1回、2才児が週2回のグループ指導、他に年齢に関係なく週2回の個人指導が組まれており、補聴器の使い方、保有聴力の活用法、日常生活の中での子供との関わり、生活習慣などのしつけ等の指導が乳幼児・母親・教師という集団で行われている。

つぎに、3~5才児学年の集団編成を表-3に示す。学習集団は、総合活動(健康・人間関係・環境・言葉・表現・養護訓練の各領域を総合化したもの)の中でクラス単位、全体、個人指導の3つの形態があり、教育相談と同様に幼児・母親・教師という集団で行われている。また、クラス活動の中では、学習が遅れているなど必要に応じ、同一授業時間内において個別に取り出して学習指導を行う「取り出し学習」も行われており、個人指導と同様に幼児、教師、母親という3名の小さな学習集団が形成されている。

表-1 乳幼児・幼児・児童・生徒数と学級・教員数

学部	幼稚部							小学部							中学部				計		
	0才	1才	2才	3才	4才	5才	重複	1年	2年	3年	4年	5年	6年	重複	1年	2年	3年	重複			
学級数	(1)	(1)	(1)	1	0	1	1	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	17 (3)		
在籍数(A)	(4)	(4)	(3)	4	0	2	3	9	4	6	3	3	11	5	5	2	5	2	64 (11)		
副担任(A)	-							1	-							1	2	1	1	2	8
教員数(A)	8							15							10				33		

* () は幼稚部教育相談に在籍している人数、学級数。

表-2 幼稚部教育相談の週間指導表

	月	火	水	木	金	土
対象年齢	個人指導	1才児	0才児	2才児	個人指導	2才児
教師数	1	2	2	2	1	2

表-3 幼稚部の集団編成

学年	クラス		生活集団 昼食		クラス活動		学 総 全	習 合 体 普	集 活 動 重	団 動 個人指導
	普通	重複	普	重	普	重				
3才	4	1	4		4	1		4		0 0 0 0
4才	0		8					5		
5才	2	1	3	2	2	3		2	3	0 0 0 0 0

* □内は幼児数、外は教師数。有は「取り出し学習」。

Formation of learning group in the Deaf School
A basic study on architectural planning for the Deaf School 4

HIRANE Takamitsu et al.

□小・中学部の集団編成について

小・中学部の教科別週間時数を表-4・5に示す。保有聴力を活用する聴能訓練、言語指導等を中心とした養護訓練という特別な指導領域が加わる以外は、一般の小・中学校と基本的に同じ教科を学習している。

小学部では、1～3学年のみ幼稚部と同様に母親が加わる以外は、児童と教師の集団構成であり、学年合同、3学年合同、全学年合同等あるものの、クラス単位が基本となっている。しかしまた、若干ではあるものの教科

によっては「取り出し学習」もみられる。(表-6)

小学部の集団編成もクラス単位が基本であるが、ここでも国語、数学に「取り出し学習」がみられる。(表-7)

□まとめ

今回調査校では、0～16才までの集団が一つの学校内で学習していること、0～8才まではその集団に母親が加わることで、個人指導・「取り出し学習」という最小単位の集団での学習が行われていること等の聾学校の特性を示すと思われるものがみられた。また、保有聴力の活用という観点において集団補聴設備の使用を考える必要があることから、特に最小単位の集団での学習集団の編成に注目する必要があると思われる。

表-4 小学部の週間授業時数

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	養訓	特活	計
1年	6		4		3	2	2		3	1	3	1	25
2年	6		5		3	2	2		3	1	3	1	26
3年	6	3	5	3		2	2		3	1	2	1	28
4年	6	3	5	3		2	2		3	1	2	2	29
5年	5	3	4	3		2	2	2	3	1	2	2	29
6年	5	3	4	3		2	2	2	3	1	2	2	29

*養訓は養護・訓練、特活は特別活動。単位時間は45分。

表-5 中学部の週間授業時数

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育	技家	英語	道徳	養訓	特活	計
1年	5	4	3	3	1	2	3	2	(3)	1	1	2	30
2年	4	4	4	3	1	2(1)	3	2	(3)	1	1	2	30
3年	4	4(1)	4	3	1	2(1)	3	2	(3)	1	1	2	30

* ()は選択教科の時数。単位時間は50分。

表-6 小学部の集団編成

学年	クラス		生活集団		国語 算数 普重	社会 理科 普	生活 普重	学 習 集 団		道徳 普重	体育 普重	養護 訓練 普重	特別 活動 普重
	普通	重複	昼食	朝の会				音楽 図工 普重	家庭 普				
1	5	1	5	2	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	4	1	4	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4
2	4	1	4	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4
3	6	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
4	3	1	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3
5	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3
6	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5
	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6

* □内は生徒数、外は教師数。有は「取り出し学習」。

表-7 中学部の集団編成

学 年	クラス		生活集団		国語 普重	数 学 普重	社会 理科 英語 保健 普	学 習 集 団 音楽 養護 訓練 普重	集 団 技術 家庭 普重	美 術 普重	体 育 普重	道徳 特別 活動 普重
	普通	重複	昼食	ホーム ルーム								
1	5	2	5	2	5	2	5	2	5	2	5	2
2	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
3	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1

* □内は生徒数、外は教師数。有は「取り出し学習」。

*1 筑波技術短期大学 助教授・芸術 Assoc.Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tsukuba College of Technology, M. Art.

*2 筑波技術短期大学 教授・工博 Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tsukuba College of Technology, Dr. Eng.